

胡蝶蘭の交配の方法をご紹介します

アマビリスの紹介のところで書きました。私たちが胡蝶蘭農家は、常に良い花を求めて様々な胡蝶蘭を人工的に交配しています。今回は、胡蝶蘭の交配の方法をご紹介します。

例えば、今ある花より、もっときれいなピンクの花がほしいと思います。その場合、マッチ棒のしりや爪楊枝を使って、ピンクの花から



白花のめしべにおしべを交配します



岸田が交配をご説明します



交配に成功すると房ができます



おしべをマッチ棒で取り出します



珍しい胡蝶蘭の種。粉のようです。



おしべはこんなに小さいのです

おしべを取り出し、胡蝶蘭のおしべは、ちよつと突いてあげると、パカッと花から外れるようにできています。本場にマッチ棒の先くらいのおしべを受粉させたい花のめしべが入っている小部屋に入れてあげます。たったそれだけ、簡単です。交配に成功すると、花が落ちた後に、房ができます。その房

の中には粉のような種が十萬個も入っています。ご家庭でも、この種を作るところまではできますが、発芽させることは難しいでしょう。なぜなら、植物の種は、胚乳の栄養分を使って発芽しますが、蘭はその部分をもっていないからです。そのため、私たちが蘭園では、無菌のフラスコの中で、種に外から栄養分を与えて、発芽させているのです。

日本農業新聞で彩華のワルツが紹介

十月二十六日付の日本農業新聞全国版の一面にて、彩華のワルツが取り上げられました。他の人と



蘭の大玉が表紙に

当園が百本の白大輪で作った「蘭の大玉」を、徳島県の河野メリクロン様が発行している「蘭夢だより」の表紙に採用いただきました。



河野メリクロン様は、シンビジウム「あんみつ姫」を世に送り出している蘭業界のトップ企業様です。当園も目標にしている会社様です。

はひと味ちがうプレゼント向け商品として、個人需要を高めたい点を評価していただきました。

ので、採用いただき、とても喜んでます。

ぐるっと満開
コチョウラン
個人需要増へ
さいたま市の黒白洋蘭園

コラボさいたまに出展しました

さいたま市の前向きな企業が一堂に会する「コラボさいたま2012」が十一月九日から十一日の三日間開催され、当



園も参加しました。当日は、清水はやと市長にも、当園のブースにご訪問いただき、蘭に囲まれて写真撮影をしていただきました。



メンバー紹介 第7回 百武 友美



ひやくたけ ともみ
出身地：埼玉県桶川市
誕生日：3月12日
血液型：O型
星座：魚座
家族：夫、娘5年生 息子3年生
趣味：山登り
担当：売店での接客

この仕事に就いたきっかけは？「社会人になってから結婚するまで、お花屋さんで働いていました。しばらくお花に関わる仕事から離れていましたが、お友達が先にここで働いていて、募集しているよと教えてくれたんです。」

この仕事の楽しいところは？「一言で胡蝶蘭と言っても、様々な大きさや色の種類のものを見られることです。そして、お客様からありがとうとお言葉をかけていただくことが嬉しいです。大変なことは、大切なシーンで使われることのお花ですので、ミスがないように、お客様の信頼を裏切らないよう、という責任感の重さです。」

こんなふうになったらいいな？「贈答用やオフィスユースのお客様が多いですが、ご自宅で胡蝶蘭を楽しみたいというお客様にも、もっとご来店いただきたいです。そのために、もっとお花を組み合わせた、鉢や装飾を工夫して、いろいろな形でお客様にお出しできたら、楽しいですね。」